

平成 19 年 5 月 22 日

委員長コメント

【平成 19 年第 1 四半期】

- 1 今回の報告期間は平成 19 年 1 月 1 日から平成 19 年 4 月 1 日までの約 3 か月である。
法定報告に基づく新規 H I V 感染者報告数は 227 件（うち男性 206 件、女性 21 件。前回報告 235 件、前年同時期 198 件）で、平成 18 年第 4 四半期の 235 件に次いで過去 4 位である。
一方、新規 A I D S 患者報告数は 81 件（うち男性 73 件、女性 8 件。前回報告 85 件、前年同時期 92 件）で過去 14 位である。
- 2 感染経路別に見ると、新規 H I V 感染者では同性間性的接触によるものが 141 件（全 H I V 感染者報告数の約 68%）と最も多く、そのうち 132 件が日本国籍男性であった。
また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 60 件（全 H I V 感染者報告数の約 26%、うち男性 45 件、女性 7 件）である。
一方、新規 A I D S 患者では同性間性的接触によるものが 25 件（全 A I D S 患者報告数の約 31%）、異性間性的接触によるものが 25 件（全 A I D S 患者報告数の約 31%、うち男性 18 件、女性 7 件）である。
年齢別では、新規 H I V 感染者は 20～30 代が多数（約 67%）を占め、新規 A I D S 患者は 30～50 代と広く分布している。
要約すると、感染者・患者とも約 90%を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が約 60%を占めている。
- 3 平成 19 年 1 月～3 月末までの保健所における H I V 抗体検査件数は 26,308 件、自治体が実施する保健所以外の検査件数は 6,840 件、保健所等における相談件数は 49,132 件となっており、いずれも前年同時期より大幅に増加した。
- 4 平成 19 年 1 月から 3 月までの献血件数（速報値）は 1,222,911 件（昨年同時期速報値 1,227,759 件）で、そのうち H I V 抗体・核酸増幅検査陽性件数は 19 件（昨年同時期速報値 25 件）であった。10 万件当たりの陽性件数は 1.554 件（昨年同時期速報値 2.036 件）で、前年より減少した。
- 5 新規 H I V 感染者報告数を感染経路別に見ると、男性同性間性的接触は依然半数を超えている。また年齢別では、20～40 代に H I V 感染が広がっているものの、前年と比べて 30 代以上の増加傾向を認めた。このような傾向と、検査・相談件数の増加が、去年 6 月に実施した H I V 検査普及週間以降も持続し、さらに世界エイズデー期間前後にかけて大幅に増加した後も高い水準で推移していることを合わせて考えると、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業による検査体制の整備について一定の成果が認められる。
一方で、検査・相談件数が減少に転じている自治体もあり、今後も全国的に検査・相談件数の増加傾向が持続するのか注視していく必要がある。

6 各自治体においては保健所等を中心に、H I V検査普及週間を利用し、さらに利用者の利便性（夜間・休日等）に配慮した検査・相談事業を推進し、予防に関する普及啓発に努めることが重要であり、H I V感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制に努める必要がある。

また、国民はH I V・A I D Sについての理解を深め、身近な問題として積極的に予防に努めるべきである。早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、H I V抗体検査の機会を積極的に利用していただきたい。